09　橋梁工

09－Ⅰ　《鋼橋上部工》

09－01　鋼橋製作工

林野庁「治山林道必携（積算・施工編）」８森林整備保全事業標準歩掛の制定について 第３編 林道 第３－１ 鋼橋製作工による。

09－02　橋梁塗装工

09－02－100　現場塗装

現場塗装は、「00－03－040　土木工事標準単価　橋梁塗装工」によるものとする。

09－02－200　工場塗装工

林野庁「治山林道必携（積算・施工編）」８森林整備保全事業標準歩掛の制定について 第３編 林道 第３－２ 橋梁塗装工（工場塗装及び塗装前処理）による。

09－03　鋼橋架設工

１　適用範囲

本資料は、鋼橋の架設工事に適用する。なお、本資料による積上げ積算は、標準的な架設条件を前提としているので、特殊な架設条件の場合又は本資料による架設工法によらない場合は、別途架設設計のうえ積上げ積算するものとする。

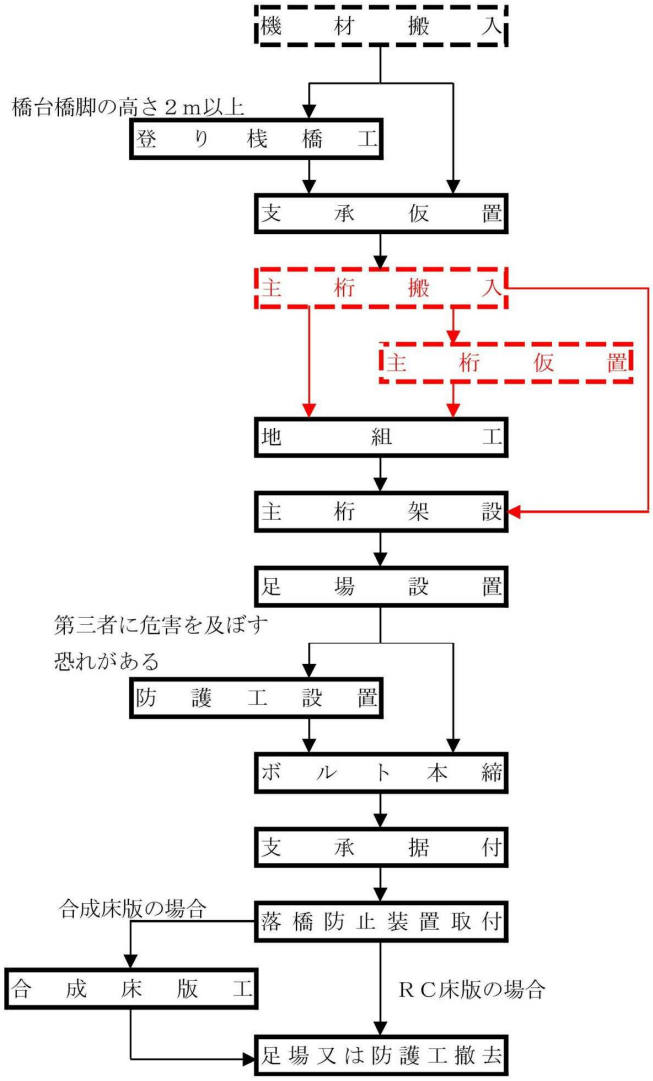
橋梁形式による架設工費の補正は考慮しないことを標準とするが、ケーブルクレーン又はケーブルエレクションを使用した架設において斜橋で斜度の強い場合及び曲線橋は補正することができる。

~~なお、少数主桁は適用外とする。~~

（１）架設費の内容は次表のとおりである。ただし、本表は架設費の総括表であり、架設工法により適用項目を抽出して積上げ計上する。架設工法が併用工法となる場合でも適用項目を現地条件勘案の上、組合せて積算することができる。

２　施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



備考　本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

３　機種の選定

３－１　移動式クレーン

移動式クレーンの機種・規格は、次表を標準とする。

工　　法	用　途	種 類 ・ 規 格
・移動式クレーン ・移動式クレーンによるステージング	架設用クレーン 合成床版用 クレーン	５ｔ以上80ｔ未満 ラフテレーンクレーン油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型（~~第２次基準値~~2014年規制） 各種　それ以外 トラッククレーン油圧伸縮ジブ型　　各種
・ケーブルクレーン ・ケーブルクレーンによるステージング ・ケーブルエレクション	補助クレーン	ラフテレーンクレーン 油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（~~第２次基準値~~ 2014年規制）　　各種

備考　１　架設用クレーン、合成床版用クレーン、補助クレーンは、最大部材質量、作業半径、吊上げ高さ等を勘案し、現場条件に適合した規格、台数を選定し計上する。

２　地組を行う場合の主クレーンは、架設と兼用するものとし、最大部材質量、作業半径は地組を考慮したものとする。

3　ケーブルクレーン、ケーブルクレーンによるステージング、ケーブルエレクション工法の場合、ケーブル設備据付・解体等は補助クレーンを使用する。

4　現場条件により~~上表により難い場合は、クレーンの機種・規格を別途選定する。その際に~~クローラクレーンを使用する場合も本歩掛を適用できる。

5　~~ラフテレーンクレーン及びトラック~~移動式クレーンは、賃料とする。

~~6　補助クレーンに使用するラフテレーンクレーンで７ｔ、10ｔ、45ｔを選定した場合は、排出ガス対策型（第１次基準値）とする。~~

~~７~~6　架設用クレーン、合成床版用クレーンについて、規格が５ｔ吊以上80t吊未満となる場合は、ラフテレーンクレーン（排出ガス対策型（~~第２次基準値~~2014年規制））を標準とする。

~~８~~7　支承工、落橋防止装置取付工、ベント設備設置・撤去、ベント基礎設置・撤去で使用するクレーンは各工種で計上する。

３－２　ケーブルクレーン設備

架設計画による。

３－３　ケーブルエレクション設備

架設計画による。

３－４　ベント設備

架設計画による。

３－５　発動発電機

ケーブルクレーン運転、本締工等に使用する発動発電機の規格は、次表を標準とする。ただし、商用電源を使用する場合は計上しない。

発動発電機規格

工　　法	規　　格
・移動式クレーン ・移動式クレーンによるステージング	ディーゼルエンジン駆動 排出ガス対策型（第３次基準値） 20/25ＫＶＡ
・ケーブルクレーン ・ケーブルクレーンによるステージング ・ケーブルエレクション	ディーゼルエンジン駆動 排出ガス対策型（第~~１~~3次基準値） 100/125ＫＶＡ

備考　1　発動発電機は賃料とする。

2　標記規格により難い場合は、上記以外の規格を使用することができる。

３－６　仮締ボルト及びドリフトピンの規格及び数量

仮締ボルト及びドリフトピンの規格及び数量は、次表を標準とする。これにより難い場合は、積上げて算出してもよい。

仮締ボルト及びドリフトピンの数量

名　　称	規　　格	本締めボルト規格	穴　　径	数　　量
仮締ボルト	φ22mm用	M22	φ24.5mm	本締めボルト総本数 ×１／３×２／３
	φ19mm用	M19	φ21.5mm	
ドリフトピン	φ24.5 × 150mm	M22	φ24.5mm	本締めボルト総本数 ×１／３×１／３
	φ21.5 × 150mm	M19	φ21.5mm	

4　支承工

09－03－400　金属支承据付工（SQ0901）

金属支承据付工歩掛は、次表を標準とする。

表3.4　金属支承据付工歩掛

架 設 工 法	日当り施工量 Ｄｎ（基／日）	編成人員（人）		機械名	諸雑費率(%)(注)3	
					平均橋台橋脚高さ２ｍ未満	平均橋台橋脚高さ２ｍ以上
移動式クレーン	$Dn = \frac{N}{0.3\ a\ (N+9)}$	橋りょう世話役 橋りょう特殊工 普通作業員	1 3 1	ﾗﾌﾃﾚｰﾝｸﾚｰﾝ油圧伸縮ｼﾞﾌﾞ型・排出対策型~~第2次排対型~~（2014年規制）25ｔ吊	1	8
ケーブルクレーン	$Dn = \frac{N}{0.24\ a\ (N+8)}$	橋りょう世話役 橋りょう特殊工 普通作業員	1 5 1	ケーブルクレーン	(0.9)	(8)

Ｎ：支承設置数（基）

ａ：１基当り支承質量による係数（付表－１）

備考　１　本歩掛は、支承据付に伴う仮置き・調整・無収縮モルタル打設等までの作業を含む。

２　現場条件によりラフテレーンクレーンの規格が上表により難い場合は、現場条件に適した規格を選定する。

３　クレーン賃料、架設工具損料等は09－03－1300により別途計上する。

４　諸雑費は、支承据付用足場材賃料（平均橋台橋脚高さ２ｍ以上）及び発動発電機を使用した場合の発動発電機の燃料・油脂類の費用等であり、労務費の合計額に表3.4の率を乗じた金額を上限として計上する。なお、商用電源を使用した場合は、支承据付用足場材賃料（平均橋台橋脚高さ２ｍ以上）及び商用電力料として（　）内の率を乗じた金額を上限として計上する。

５　支承質量はアンカーボルトを含む。

６　支承据付材料（無収縮モルタル等）は付表－２により別途計上する。

７　日当り施工員Ｄｎは、小数第２位を四捨五入し、第１位止めとする。

付表－１　金属支承質量による係数

架　設　工　法	１基当たり支承質量Ｘ≦0.6	１基当たり支承質量Ｘ>0.6
移動式クレーン	0.7	1.0
ケーブルクレーン	1.0	1.3
備　　考	１基当たり支承質量＝ $\frac{\text{支承総質量}}{\text{支承設置数}}$	

Ｘ：１基当たり支承質量（ｔ）

付表－２　支承据付用無収縮モルタル

（1m³当り）

名　　称	規　　格	単　位	数　量	摘　　要
無収縮材	セメント系（プレミックスタイプ）	ｋｇ	1,875	
水		l	338	

備考　1．上表にはロスを含む。

09－03－420　ゴム支承据付工（SQ0902）

ゴム製支承据付工歩掛は、次表を標準とする。

表3.4.2　ゴム支承付工歩掛

種　別	日当り施工量 Ｄｎ（基／日）	編成人員 （人）		機械名	諸雑費率（%） 平均橋台橋脚高さ２ｍ未満	諸雑費率（%） 平均橋台橋脚高さ２ｍ以上
一般支承	$Dn = \dfrac{1}{0.082\ W + 0.324}$	橋りょう世話役 橋りょう特殊工 普通作業員	1 3 1	ﾗﾌﾃﾚｰﾝｸﾚｰﾝ油圧伸縮ｼﾞﾌﾞ型・排出対策型~~第2次排対型~~(2014年規制)、25ｔ吊	2 (0.9)	11 (10)
機能分離型支承	$Dn = \dfrac{1}{0.101\ W + 0.484}$					

Ｗ：１基当り支承質量（ｔ）

１基当り支承質量 ＝ 支承総質量／支承設置数

備考　１　本歩掛は、支承据付に伴う架設から調整までの作業を含む。

１　現場条件によりラフテレーンクレーンの規格が上表により難い場合は、現場条件に適した規格を選定する。

３　クレーン賃料、架設工具損料等は09－03－1300により別途計上する。

４　諸雑費は、支承据付用足場材賃料（平均橋台橋脚高さ２ｍ以上）及び発動発電機を使用した場合の燃料・油脂類の費用等であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。なお、商用電源を使用した場合は、支承据付用足場材賃料（平均橋台橋脚高さ２ｍ以上）及び商用電力料として（　）内の率を乗じた金額を上限として計上する。

５　支承総質量にはアンカーボルトを含む。

６　支承据付材料（無収縮モルタル）は表3.4の付表－２により別途計上する。

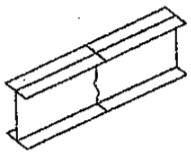
７　日当り施工員Ｄｎは、小数第２位を四捨五入し、第１位止めとする。

８　支承総質量、総設置数は、上表の種別毎の支承当りの数量を計上する。

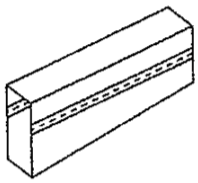
５　地組工

09－03－500　地組工（SQ0903）

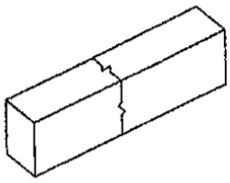
地組工歩掛は、次表を標準とする。



鈑桁・小数Ｉ桁
（縦列組）



箱桁・細幅箱桁
（横割ブロック組立）



箱桁・細幅箱桁
（縦列組）

表3.5　地　組　工　歩　掛

桁　形　式	日当り施工量 Ｄｇ（ｔ／日）	編成人員（人）		諸雑費率（%）
鈑　桁 ラーメン（鈑桁形式）	$Dg = \dfrac{G}{0.026\ 0.029(G + 77\ 87)}$	橋りょう世話役 橋りょう特殊工	1 5	備考４ ~~6~~
箱　桁 ラーメン（箱桁形式）	$Dg = \dfrac{G}{0.018\ 0.020(G + 77\ 87)}$	橋りょう世話役 橋りょう特殊工	1 6	
小　数　Ｉ　桁 （鈑桁形式）	$Dg = \dfrac{G}{0.023\ 0.026(G + 77\ 87)}$	橋りょう世話役 橋りょう特殊工	1 5	
細　幅　箱　桁 （箱桁形式）	$Dg = \dfrac{G}{0.018\ 0.020(G + 77\ 87)}$	橋りょう世話役 橋りょう特殊工	1 6	

Ｇ：地組質量（ｔ）

備考　1　本歩掛は、運搬車両から地組用架台への取卸し又は仮置きから地組用架台への設置及び地組に伴う仮締を含む。

2　地組用架台に直接取卸しせずに、仮置きする場合の取卸に要する費用は別途計上する。

3　仮置き場所から小運搬が必要な場合は別途計上する。

~~2~~4　地組質量は、地上組立をすべき主桁（鋼床版・添接板を含む。）の質量であり、副部材及び高欄の質量は除いたものである。

~~3~~5　地組工には、本締工は含まない。

~~4~~6　諸雑費は、地組用架台損料、発動発電機を使用した場合の燃料・油脂類の費用であり、労務費の合計額に、上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

なお、商用電源を使用した場合も同値とする。

~~5~~7　クレーン賃料、架設工具損料等は09－03－1300により別途計上する。

~~6~~8　日当り施工量Ｄｇは、小数第２位を四捨五入し、第１位止めとする。

６　架設工

09－03－600　鈑桁・箱桁・ラーメン（SQ0903）

09－03－610　移動式クレーン・移動式クレーンによるステージング

移動式クレーン・移動式クレーンによるステージングの鈑桁・箱桁及びラーメンの架設工歩掛は、次表を標準とする。

表3.6　架設工歩掛

桁　形　式	日当り架設重量 Ｄｗ（ｔ／日）	編成人員（人）		諸雑費率（%）
鈑　　桁 ラーメン（鈑桁形式）	$Dw = \dfrac{W}{0.24a\ (n+12)}$ ただし、 鈑桁９≦Ｄｗ≦45ｔ／日 箱桁20≦Ｄｗ≦65ｔ／日 小数Ｉ桁９≦Ｄｗ≦55ｔ／日 細幅箱桁20≦Ｄｗ≦65ｔ／日	橋りょう世話役 橋りょう特殊工	1 5	備考７ ~~11~~10 (10)
箱　　桁 ラーメン（箱桁形式）		橋りょう世話役 橋りょう特殊工	1 6	
小　数　Ｉ　桁 （鈑桁形式）		橋りょう世話役 橋りょう特殊工	1 5	
細　幅　箱　桁 （箱桁形式）		橋りょう世話役 橋りょう特殊工	1 6	

Ｗ：橋体総質量（ｔ）

ｎ：主桁架設回数（回）

ａ：一部材質量による係数（付表－１）

09－03－620　ケーブルクレーン・ケーブルクレーンによるステージング・ケーブルエレクション

ケーブルクレーン・ケーブルクレーンによるステージング・ケーブルエレクションの鈑桁・箱桁及びラーメンの架設工歩踏は、次表を標準とする。

表3.6.2　架設工歩掛

桁　形　式	日当り架設重量 Ｄｗ（ｔ／日）	編成人員（人）		諸雑費率（%）
鈑　　桁 箱　　桁 ラ　ー　メ　ン	$Dw = \dfrac{W}{0.53a\ (n+6)}$ ただし、Ｄｗ≧９ｔ／日	橋りょう世話役 橋りょう特殊工 普通作業員	1 7 1	8 （４）

Ｗ：橋体総質量（ｔ）

ｎ：主桁架設回数（回）

ａ：一部材質量による係数（付表－２）

備考　ラフテレーンクレーンの吊り上げ荷重は、５ｔ以上１００ｔ未満の範囲とする。

09－03－650　トラス

トラス架設工歩掛は、次表を標準とする。

表3.6.5　架設工歩掛

工　　法	1日当り架設質量 Dw（t／日）	編成人員（人）		諸雑費率（%）
移動式クレーン・移動式クレーンによるステージング	Dw＝0.025W＋4.35 ただし、 6 ≦Dw≦ 11.5t/日 50≦W≦ 300t	橋りょう世話役 橋りょう特殊工 普通作業員	1 7 1	（注7） 8 （4）
ケーブルクレーン				
ケーブルクレーンによるステージング				
ケーブルエレクション（直吊）（斜吊）				

W：1径間当り橋体総質量（t）

備考　1．ラフテレーンクレーンの吊り上げ荷重は、5t以上100t未満の範囲とする。

付　表

付表－1　一部材質量による係数

鈑　　桁 ラーメン(鈑桁形式)	一部材質量（t）	10以下	10超
	a	1.0	1.2
箱　　桁 ラーメン(箱桁形式)	一部材質量（t）	20~~以下~~未満	20~~超~~以上
	a	－	1.6
小　数　I　桁 （鈑桁形式）	一部材質量（t）	20以下	20超
	a	1.3	1.7
細　幅　箱　桁 （箱桁形式）	一部材質量（t）	20~~以下~~未満	20~~超~~以上
	a	－	1.6
備　　考		一部材質量＝ $\frac{\text{主桁質量}}{\text{主桁架設回数}}$	

付表－2　一部材質量による係数

一部材質量（t）	4 以 下	8 以 下	14 以 下	20 以 下
a	0.7	1.0	1.5	1.9
備　　考	一部材質量＝ $\frac{\text{主桁質量}}{\text{主桁架設回数}}$			

備考　1　本歩掛には、架設に伴う仮締を含むが、地組及び支承据付は別途積算する。また、落橋防止装置のうち鋼板が主体となっているものの取付歩掛を含む。

2　歩掛は、標準構成人員による架設作業である。

3　橋体総質量は、「鋼道路橋数量集計マニュアル（案）」における「工数算定要素集計表」の加工鋼材質量の合計（本体及び本体と同様に集計する付属物の加工鋼材質量の合計）から排水装置及び、落橋防止装置の質量を除き、伸縮装置及び検査路（桁付・下部付）の加工鋼材質量を加算したものとする。なお、鋼床版桁の場合は排水桝の鋼材質量を加算する。

4　主桁質量は「鋼道路橋数量集計マニュアル（案）」にて主桁の大型材片及び小型材片に分類されている部材の総重量である。なお、鋼床版桁の場合は鋼床版の大型材片及び小型材片に分類されている部材の質量の合計も含む。

5　主桁架設回数には鋼床版の架設回数を含む。なお、地組を行った場合の主桁架設回数は地組後の部材数を架設回数とする。

6　クレーン賃料、架設工具損料等は09－03－1300により別途計上する。

7　諸雑費は、発動発電機を使用した場合の発動発電機の燃料・油脂類及び消耗材料の費用であり、労務費の合計額に表3.6、表3.6.2、表3.6.5の率を乗じた金額を計上する。

なお、商用電源を使用した場合は商用電力料及び消耗材料費として（ ）内の率を乗じた金額を計上する。

8　日当り施工量Dwは、小数点以下第2位を四捨五入し、1位止めとする。

9　橋梁排水管装置と鋼橋架設を同時発注する場合は橋梁排水管設置については橋梁排水管設置工の歩掛を適用する。

10　アーチ橋、ランガー橋架設歩掛は、トラス架設工歩掛を準用する。

7　本締工

09－03－700　本締工（SQ0905）

本締工歩掛は、次表を標準とする。

表3.7　本締工歩掛

日当り施工量Ｄｑ（本／日）	構成人員（人）		諸雑費率（%）
$Dq = \dfrac{Q}{0.41Q/1000+2.13}$ ただし上限を1,670本とする。	橋りょう世話役 橋りょう特殊工	1 5	備考３ 4

Ｑ：本締ボルト総本数（本）（高カボルト＋トルシア型ボルト）

備考　１　本歩掛は、地組及び架設の際の本締工に適用する。

２　架設工具損料等は09－03－1300により別途計上する。

３　諸雑費は、発動発電機を使用した場合の燃料・油脂類及び消耗材料の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

なお、商用電源を使用した場合も同値とする。

４　日当り施工量Ｄｑは、一の位を四捨五入し、十の位とする。

５　トルシア型ボルトにおけるピンテールの破断面処理（錆防止等）は、別途考慮する。

8　落橋防止装置取付工

09－03－ 800　落橋防止装置取付工（SQ0906）

ＰＣ鋼棒又はケーブルによって連結される落橋防止装置の取付歩掛は、次表を標準とする。

表3.8　落橋防止装置取付歩掛

日当り施工量Ｄｋ（組／日）	構成人員（人）		機 械 名
4	橋りょう世話役 橋りょう特殊工	1 3	ﾗﾌﾃﾚｰﾝｸﾚｰﾝ油圧伸縮ｼﾞﾌﾞ型･排出ｶﾞｽ対策型(~~第2次~~2014年規制)25t吊

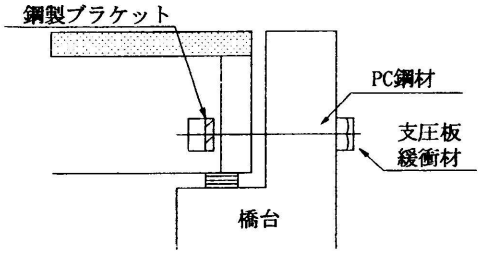
備考　１　１組とはＰＣ鋼棒又はケーブルを１本とし、それに付随するその他の部品を全て含む。なお、鋼製ブラケット部の取付は、架設工に含むものとし積上げは行わない。

２　現場条件によりラフテレーンクレーンの規格が上表により難い場合は、現場条件に適した規格を選定する。

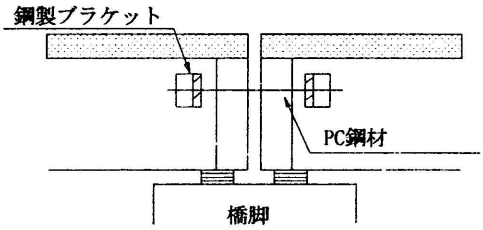
３　クレーン賃料、架設工具損料等は09－03－1300により別途計上する。

４　鋼板を主体とした落橋防止装置（タイバー連結による、主桁突起をストッパーとする等）の取付は、架設工に含む。

①　上部構造と下部構造を連結する場合



②　２連の上部構造を相互に連結する場合



落橋防止装置参考図

9　アンカー工

アンカー工は、現場条件等を勘案して積上げ積算を原則とする。

10　小運搬工

小運搬工は、現場条件、架設条件、輸送条件などで、一時仮置きを必要とする場合のみ別途計上する。

小運搬工の計上にあたっては、大規模工事で扱い部材数量が多い場合、取付道路が屈曲していて作業用地の狭い場合、交通規制を受ける場合などで一時仮置きをしなければならない現場の状況を判断したうえで、工法に応じて別途計上する。

09－03－1130　ベント設備設置・撤去（SQ0907）

ベント設備設置・撤去歩掛は、次表を標準とする。なお、ベント用足場の組立・解体労務を含む。

表3.11.3　ベント設備設置・撤去歩掛

使　用　機　械	日 当 り 施 工 量 Ｄｔ（ｔ／日）	構 成 人 員		諸雑費率(%)
ラフテレーンクレーン 油圧伸縮ジブ型･排出ｶﾞｽ対策型 排対型(~~第2次~~2014年規制)25t吊	$Dt = \dfrac{T}{\cancel{0.13}0.14\,T + \cancel{1.6}1.7}$	橋りょう世話役 橋りょう特殊工	1 5	備考４ 1 (0.7)
ケーブルクレーン	$Dt = \dfrac{T}{0.22T + 1.4}$	橋りょう世話役 橋りょう特殊工 普通作業員	1 6 1	備考４ 5 (0.5)

Ａ：ベント総質量（ｔ）

備考　１　クレーン賃料、架設工具損料等は09－03－1300により別途計上する。

２　ベント基礎は、現場状況に応じて積算し別途計上する。

３　現場条件によりラフテレーンクレーンの規格が上表により難い場合は、現場条件に適した規格を選定する。

４　諸雑費は、発動発電機を使用した場合の燃料・油脂等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。なお、商用電源を使用した場合は商用電力料として（　）内の率を乗じた金額を上限として計上する。

５　日当り施工量Ｄｔは、小数第２位を四捨五入し、第１位止めとする。

６　ベント用足場の供用１日当り損料は、ベント設備供用１日当り損料に付表１の率を乗じたものを上限とし、供用日数はベント設備供用日数と同等として計上する。ただし、平均ベント高さ２ｍ未満の場合は計上しない。

付表１　ベント用足場のベント設備損料に乗ずる率

平均ベント高さｈ（m）	ベント設備損料に乗ずる率（%）
２以上～30以下	6

09－03－1140　ベント基礎設置・撤去（SQ0908）

鋼板によるベント基礎設置・撤去歩掛は、次表を標準とする。

表3.11.4　ベント基礎設置・撤去歩掛

使　用　機　械	日当り施工量 Ｄａ（m^2／日）	構成人員（人）	
ラフテレーンクレーン 油圧伸縮ジブ型･排出ｶﾞｽ対策型 排対型(~~第2次~~2014年規制)25t吊	$Da = \dfrac{A}{\cancel{0.011}0.012\,A + \cancel{0.55}0.6}$	橋りょう世話役 橋りょう特殊工	1 4

Ａ：ベント基礎の延べ面積（m^2）

備考　１　鋼板規格は、鋼板厚さ22㎜を標準とする。

２　整地が必要な場合は、現場状況に応じて別途積算のうえ計上する。

３　鋼板損耗費を別途計上する。

４　現場条件によりラフテレーンクレーンの規格が上表により難い場合は、現場条件に適した規格を選定する。

５　日当り施工量Ｄａは整数止めとし、小数第１位を四捨五入する。

６　ベント基礎の延面積（Ａ）は次式による。

$A = \Sigma A_i$

$A_i = (B + 2) \times 3$

ただし、A_i：ベント１基当りの基礎の面積

Ｂ　：外桁～外桁間隔（箱桁は外Web～外Web間隔）　（m）

なお、A_i、Ｂとも、小数点以下第２位を四捨五入し、１位止めとする。

７　鋼板供用１日当り損耗費については、ベント設備供用１日当り損料に付表２の率を乗じるものとする。なお、鋼板供用日数は、ベント設備供用日数と同等とする。

13　架設用機械設備及び工具の供用日数

09－03－1300

架設用機械設備及び工具の供用日数等は、次表を標準とする。これにより難い場合は、別途考慮する。

表3.13　設備及び工具の供用日数等

設備機械工具名	工法別	共用日数	
移動式クレーン	移動式クレーン	架設用	（A又はA＋B）（×~~1.2~~1.4）
		合成床版用	J（×1.4）
		作業用	（C＋D＋I）
	移動式クレーンによるステージング	架設用	（A又はA＋B）（×~~1.2~~1.4）
		合成床版用	J（×1.4）
		作業用	（C＋D＋E＋I）
	ケーブルクレーン		（F＋I）
	ケーブルクレーンによるステージング		（F＋I）
	ケーブルエレクション		（G＋I）
ケーブルクレーン	ケーブルクレーン	（A＋B＋C＋D＋F＋H）×1.7	
	ケーブルクレーンによるステージング	（A＋B＋C＋D＋E＋F＋H）×1.7	
ケーブルエレクション		（A＋B＋C＋D＋G＋H）×1.7	
ベ　ン　ト		（A＋B＋C＋E＋H）×1.7	
架設工具（組立用工具及びボルト締付用工具）		（A＋B＋C＋D＋E＋（F又はG）＋H）×1.7	
ドリフトピン及び仮締ボルト		（A＋B＋C＋（F又はG）＋H）×1.7	
発動発電機		（A＋B＋C＋E＋（F又はG）＋H）×1.7	

A：架設日数（W／Dw）
B：地組日数（G／Dg）
C：支承据付日数（N／Dn）
D：落橋防止装置取付日数（K／Dk　K：落橋防止装置組数）
E：ベント設置・撤去日数（T／Dt）
F：ケーブルクレーン設備組立・解体日数（dc）
G：ケーブルエレクション設備組立・解体日数（De）
H：ボルト締付日数(Q／Dq)及び現場溶接日数
I：小運搬日数
J：合成床版架設日数

備考　1　供用日数は1パーティで各工種ごとに供用日数等を累加している。大規模工事・工期などから上表により難い場合、2パーティ、3パーティと編成人員が増す場合などは、工程表から工種による供用日数等のラップ等を考慮して算出する。

2　移動式クレーン工法で地組のある場合は、架設用クレーンの運転日数をA＋Bとする。

3　移動式クレーン工法で80t吊以上の架設用クレーンを使用する場合は、（　）内の係数を乗じる。

4　鋼床版溶接に伴う機械設備及び工具は、別途計上する。

5　移動式クレーン、発動発電機は賃料とする。

6　発動発電機の燃料、油脂類については架設等諸雑費に含まれるため、賃料のみ計上する。

7　移動式クレーンの運転日数及びその他各種機械類の供用日数等は整数止めとし、小数第1位を四捨五入する。

8　架設用クレーン等が架設工程上現場に拘束されることにより、供用日数が運転日数と著しく異なる場合は補正することが出来る。

9　高カボルトを使用する場合は、締付けトルクを自動的に記録する必要があれば高カボルト締付け自動記録計を計上するものとする。

10　ベント基礎に鋼板を用いる場合は、作業用クレーンの運転日数に、基礎にかかる運転日数も計上するものとする。

安全通路工費　　＝（L_1＋L_2×T_3＋（N_1＋N_2）×y）×A　（円）
部分作業床工費　＝（L_1＋L_2×T_4＋（N_1＋N_2）×y）×A　（円）
朝顔工費　　＝（L_1＋L_2×T_5＋（N_1＋N_2）×y）×A　（円）
ただし、片側朝顔の場合は、朝顔工費／２とする。
床版追加足場工費＝（L_1＋L_2T_6）×A　（円）
L_1、L_2 ：賃料係数（表3.14.1～6）
T_1 ：主体足場を供用している月数（月）
T_2 ：中段足場を供用している月数（〃）
T_3 ：安全通路を供用している月数（月）
T_4 ：部分作業床を供用している月数（〃）
T_5 ：朝顔を供用している月数（〃）
T_6 ：床版追加足場を供用している月数（〃）
N_1 ：設置歩掛係数（表3.14.1～6）
N_2 ：撤去歩掛係数（表3.14.1～6）
y ：橋梁特殊工単価（円／人）
A ：橋面積（㎡）
A＝W×L
W：全幅員（地覆外縁間距離）（m）
L：橋長（m）
備考1　架設及び塗装足場において桁下に防護工を併設する場合は、朝顔を防護工必要橋面積（全幅員×必要長）分計上する。更に各工程で兼用使用する場合は各々必要な賃料及び労務を考慮した上で計上する。
2　N1、N2 は、橋りょう世話役及び橋りょう特殊工の換算値である。

表3.14.1　主体足場各係数

種　　類	パイプ吊足場				ワイヤーブリッジ転用足場			
	L_1	L_2	N_1	N_2	L_1	L_2	N_1	N_2
プレートガータ ボックスガータ	201	108	~~0.029~~ 0.033	~~0.020~~ 0.023	269	87	~~0.045~~ 0.051	~~0.028~~ 0.032
ラーメン	261	151	~~0.038~~ 0.043	~~0.024~~ 0.027	－	－		
トラス・アーチ	403	263	~~0.056~~ 0.063	~~0.034~~ 0.038	944	599	~~0.072~~ 0.081	~~0.042~~ 0.047
少数Ⅰ型	131	117	~~0.028~~ 0.032	~~0.020~~ 0.023	－	－		

備考1　ワイヤープリッジ転用足場を使用する場合、πラーメン、上路式アーチには適用できない。
また、単独発注する場合は、架設のみしか適用できない。
2　ワイヤーブリッジ転用足場でトラス、アーチについて、上側足場はパイプ足場としての複合単価である。

表3.14.2　中段足場各係数

種　　類	L_1	L_2	N_1	N_2
プレートガータ、ボックスガータ	126	77	~~0.013~~0.015	~~0.007~~0.008
ラーメン	104	89	~~0.013~~0.015	~~0.007~~0.008
トラス、アーチ	179	140	~~0.013~~0.015	~~0.007~~0.008
少数Ⅰ型	36	33	~~0.012~~0.014	~~0.009~~0.010

備考　中段足場は桁高（腹桁高）が 1.5m以上の場合に計上する。なお、トラス、アーチの場合は上弦材又は下弦材が1.5m以上の場合、その各々について中段足場を計上する。

表3.14.3　安全通路各係数

種　　類	L_1	L_2	N_1	N_2
プレートガータ、ボックスガータ	37	33	~~0.008~~0.009	~~0.006~~0.006
ラーメン	91	78	~~0.016~~0.018	~~0.010~~0.011
トラス、アーチ	54	49	~~0.017~~0.019	~~0.010~~0.011
少数Ⅰ型	52	51	~~0.007~~0.008	~~0.006~~0.007

表3.14.4　部分作業床各係数

種　　類	L_1	L_2	N_1	N_2
プレートガータ、ボックスガータ	78	73	~~0.004~~0.005	~~0.003~~0.004
ラ　ー　メ　ン	152	148	~~0.016~~0.018	~~0.010~~0.011
ト　ラ　ス　、　ア　ー　チ	316	294	~~0.018~~0.020	~~0.011~~0.012
少　数　I　型	76	72	~~0.004~~0.005	~~0.003~~0.004

表3.14.5　朝顔各係数

種　　類	L_1	L_2	N_1	N_2
プレートガータ、ボックスガータ	134	78	~~0.016~~0.016	~~0.010~~0.011
ラ　ー　メ　ン	77	76	~~0.017~~0.019	~~0.013~~0.015
ト　ラ　ス　、　ア　ー　チ	103	101	~~0.014~~0.016	~~0.010~~0.011
少　数　I　型	134	78	~~0.012~~0.014	~~0.008~~0.009

備考　上表は、両側朝顔時の係数である。

表3.14.6　床版追加足場各係数

種　　類	L_1	L_2
プレートガータ、ボックスガータ	15	11
ラ　ー　メ　ン		
ト　ラ　ス　、　ア　ー　チ		

（参考）

足場を架設・床版・塗装の各作業で単独使用あるいは兼用使用する場合は、次表を参考に各項目を積み上げる。なお、兼用使用する場合については、工事毎に発注方法を考慮して積上げること。

表3.14.7　架設・床版・塗装に単独使用する場合

足場部品	主体足場			中段足場			安全足場			部分作業床			朝　顔			床版追加足場
項　目	賃料	設置	撤去	賃料	設置	撤去	賃料	設置	撤去	賃料	設置	撤去	賃料	設置	撤去	賃　料
架設工事	x1	○	○	x1	○	○	x1	○	○	x1	○	○				
床版工事	x2	○	○	x2	○	○							x2	○	○	x2
塗装工事	x3	○	○	x3	○	○										

表3.14.8　架設・床版・塗装に兼用使用する場合

足場部品	主体足場			中段足場			安全足場			部分作業床			朝　顔			床版追加足場
項　目	賃料	設置	撤去	賃料	設置	撤去	賃料	設置	撤去	賃料	設置	撤去	賃料	設置	撤去	賃　料
架設工事 床版工事 塗装工事	X1+ X2+ X3	○	○	X1+ X2+ X3	○	○	x1	○	○	x1	○	○	x2	○	○	x2

x１：架設用足場を供用している月数

x２：床版用足場を供用している月数

x３：現場塗装用足場を供用している月数

X１：主体足場を供用している月数

X２：主体足場を供用している月数の架設、床版期間から架設期間を引いた月数

X３：主体足場を供用している月数の架設、床版塗装期間又は床版、塗装期間から架設、床版の期間を引いた月数

備考１　積上げ項目の賃料は、各足場部品の賃料係数L_1、L_2を、設置・撤去はそれぞれ設置労務N_1・撤去労務N_2を表す。

２　賃料欄に記載されている月数が該当足場部品の架設月数を表す。

３　設置・撤去欄に「○」が記載されている該当足場部品について各々設置・撤去労務を計上する。

４　上表は、足場工のみを設置する場合を想定しており、防護工を併設する場合は、朝顔を別途考慮する。

3)　架設、床版、塗装工事単独発注でそれぞれから引継

α＝0.0015・L+0.1（基本式）

α：設置・撤去ラップ月数（月）

L：橋長（m）

5　足場工の転用を行う場合についても、準備月数は１回のみ計上することとする。

6　歩道橋など極端に幅員の狭い床版については、上の「床版作業用足場月数」の算定式を適用できない。また、１工事当たりの床版打設延長がおおむね 500mを超える場合についてもこの式を適用できない。プレキャスト床版等の特殊工法や、一般交通を供用しながらの床版打替等についても、この式を適用できない。

7　供用月数は、少数２位を四捨五入し、１位止めとする。

8　自走クレーン（＋ベント）工法において、架設ヤードが広く、地組を全て完了してから橋体架設を連続して行えるような場合については、次式により架設作業用足場月数を算定することができる。

架設作業用足場月数＝（A＋H）× 1.5÷30（ヶ月）＋ 0.3（準備月数）

ただし、A：橋体架設日数（日）、H：ボルト締付日数及び現場溶接日数含む（日）

なお、架設ヤードが狭く、地組と橋体架設とを交互に行わなければならない場合については、上式のAに地組日数を加えて、上式を使用することができる。

14－３　防護工

防護工は、使用目的、種類等により、次に基づいて計上する。

なお､板張防護・シート張防護を桁下に設置する場合は別途足場工にて主体足場及び朝顔を計上する。

（１）板張防護工

桁下に鉄道、道路等があり第三者に危害を及ぼす恐れのある場合に計上するものとし14-2-2で算定した足場工に加算する。

板張防護工費＝（L_1＋L_2×T_8＋（N_1＋N_2）×y）×A（円）

L_1、L_2：賃料係数（表3.14.9）

T_8：防護部を供用している月数

N_1：設置歩掛係数（表3.14.9）

N_2：組立歩掛係数（表3.14.9）

y：橋りょう特殊工単価（円／人）

A：防護工必要橋面積（㎡）

A＝全幅員（地覆外縁凋距離）(m)×必要長(m)

備考 N1、N2 は、橋りょう世話役及び橋りょう特殊工の換算値である。

表3.14.9　板張防護部各係数

種　　類	L_1	L_2	N_1	N_2
ブレートガータ、ボックスガータ	217 (149)	141 (129)	~~0.027~~ 0.030 ~~(0.025)~~ (0.028)	~~0.012~~ 0.013 ~~(0.011)~~ (0.012)
ラーメン				
トラス・アーチ				
少数Ｉ型				

備考１　（　）内は片側朝顔の場合使用する。

２　各係数には、側面（朝顔）部分に要する防護費を含む。

（２）シート張防護工

鋼橋塗装において塗装飛散を防止する必要がある場合に計上するものとし、14-2-2で算定した足場工に加算する。ただし桁下に鉄道､道路等があり第三者に危害を及ぼす恐れがある場合は板張防護工とする。

シート張防護工費＝（L1＋L2×T_8＋（N_1＋N_2）×y）×A（円）

L_1、L_2：賃料係数（表3.14.10）

T_8：防護部を供用している月数

N_1：設置歩掛係数（表3.14.10）

N_2：組立歩掛係数（表3.14.10）

y：橋りょう特殊工単価（円／人）

A：防護工必要橋面積（㎡）

A＝全幅員（地覆外縁凋距離）(m)×必要長(m)

備考 N1、N2 は、橋りょう世話役及び橋りょう特殊工の換算値である。

表3.14.10　シート張防護部各係数

種　　類	L_1	L_2	N_1	N_2
ブレートガータ、ボックスガータ	97 (73)	60 (45)	~~0.006~~ 0.007 ~~(0.005)~~ (0.006)	~~0.003~~ 0.004 ~~(0.003)~~ (0.004)
ラーメン				
トラス・アーチ				
少数Ⅰ型				

備考１　（　）内は片側朝顔の場合使用する。

２　各係数には、側面（朝顔）部分に要する防護費を含む。

３　「シート＋板」張防護を行う場合は別途積算する。

また、トラス、アーチ、ランガー桁等側面を塗装する場合において、飛散防止のためのシート防護工を設置する場合は、次式による。

シート防護工費＝｛39＋26×T_9＋0.003ｙ（設置）＋0.001ｙ（撤去）｝×Ａ（円）

T_9：防護工供用月数（月）

ｙ　：橋りょう特殊工単価（円／人）

Ａ　：トラスの側面面積（左右両弦の合計）（㎡）

Ａ＝側面投影面積×２

（３）ワイヤーブリッジ防護工

転落防護、落下防止及び対岸又は相隣接する橋台，橋脚間の往来が困難な場所での通路足場設置の目的でワイヤープリッジを設置する場合は、次式による。

（ワイヤーブリッジ転用足場としない場合）

ワイヤープリッジ防護工費＝

｛229＋59T_{10}＋(~~0.045~~0.05~~ｙ~~（~~設置~~組立）＋~~0.019~~0.021~~ｙ~~（~~撤去~~解体））ｙ｝×Ａ（円）

T_{10}：防護工（ワイヤーブリッジ）供用月数（月）

ｙ　：橋りょう特殊工単価（円／人）

Ａ　：橋面積（㎡）

Ａ＝全幅員（地覆外縁間距離）(m)×橋長(m)

（４）ネット防護工

転落防護，落下防止及び桁下の第三者への災害防止の目的で安全ネットを設置する場合とし，次式による。

（架設に先立ち，パイプ吊足場とは別途に設置する場合）

ネット防護工費＝｛128＋44T_{11}＋~~0.017~~0.019ｙ（設置）＋~~0.013~~0.015ｙ（撤去）｝×Ａ（円）

T_{11}：防護工（ネット）供用月数（月）

ｙ　：橋りょう特殊工単価（円／人）

Ａ　：防護工必要橋面積（㎡）

Ａ＝全幅員（地覆外縁間距離）(m)×必要長（支間長）(m)

14－４　登り桟橋工

14－４－１　設置条件及び設置箇所数

橋脚における登り桟橋については、次により計上することを原則とする。

①　橋脚、橋台の高さが２m以上となる場合を対象とする。

②　設置箇所数は、河川内等で設置が困難な場合あるいは設置する必要がない場合を除き、現場状況を勘案し、橋脚、橋台に各１箇所とする。

14－４－２　登り桟橋工費

登り桟橋工費は、次式による。

登り桟橋工費＝｛5,116＋2,917T_{12}＋~~0.427~~0.474ｙ（設置）＋~~0.307~~0.341ｙ（撤去）｝×Ｈ（円）

T_{12}：登り桟橋を供用している月数（月）

ｙ　：橋りょう特殊工単価（円/人）

Ｈ　：登り桟橋の高さ（m）

備考　手摺先行型枠組足場は二段手摺及び幅木の機能も有している。

09－Ⅲ　《橋梁付属施設設置工》

09－06　橋梁排水管設置工（SQ0919）

「20　施工パッケージ　No.~~407~~408 コンクリートアンカーボルト設置、No.~~408~~409 排水管設置による。

09－07　排水桝設置工（参考）

1　適用範囲

本資料は、橋梁上部工の排水桝を設置する作業に適用する。ただし、鋼床版を同時に施工する場合は適用しない。

2　排水桝設置歩掛

表7.2　（10個）

名　　称	単位	数　量
世　話　役	人	1.0
普通作業員	〃	4.0

備考　1　上表の歩掛は、質量20kg／個以上～ 110kg／個以下に適用する。
　　2　上表の歩掛には、小運搬を含む。

09－08　橋名板取付工（参考）

1　適用範囲

本歩掛は、親柱及び高欄に橋名板（ 200× 800mm以下）を取付ける場合に適用する。

2　橋名板取付歩掛

表8.2　（枚）

名　　称	単位	橋名板取付	
普通作業員	人	0.14	
計			

備考　1　本表には、小運搬も含まれる。
　　2　取付ボルト等の材料費は、必要に応じて別途計上する。

09－09　高欄設置工（参考）

1　適用範囲

本歩掛は、橋梁用高欄（鋼製、ダクタイル製）の設置に適用する。
ただし、橋梁用ガードレール高欄及び側道橋用高欄を除く。

2　橋梁用高欄設置歩掛

表9.2　（100m）

種別／名称	規　　格	単位	型式区分	
			組立式	一体式
世　話　役		人	3.0	3.0
普通作業員		〃	12.0	12.0
トラック運転	4ｔ積 2.9ｔ吊クレーン付	時間	－	12.0

備考　1　上表には、小運搬を含む。
　　2　上表の歩掛は，組立式・一体式に適用する。
　　3　組立式とは、支柱と横枠部を分割できる市販品。
　　一体式とは、形鋼等による工場製作品をいう。
　　4　基礎は、別途計上する。

10－10　植生吹付工（参考資料）

10－10－100　種子吹付工（各種）

1　吹付工法

①　種子吹付工（各種）は、養生剤等に種子・肥料を混合して、種子吹付機により吹付ける工法である。

種類は、ファイバー種子吹付工、腐植酸類種子吹付工、有機材種子吹付工である。なお、その類似工種として肥料袋付ネット張吹付工、ワラ伏緑化工を掲載しているが、これらは参考資料である。

②　法面工のうち、繊維ネット工、機械播種施工による植生工（植生基材吹付工、客土吹付工、種子散布工）、人力施工による植生工（植生マット工、植生シート工）及び吹付枠工のうち、枠内吹付工（植生基材吹付工）は「市場単価　00－02－110　法面工」を適用する。

~~10－10－550　木質系植生基材吹付工~~

~~表4.5　木質系植生基材吹付歩掛~~

~~（100m2当たり）~~

~~名称~~	~~規格~~	~~単位~~	~~3cm厚~~	~~5cm厚~~	~~8cm厚~~	~~摘要~~
~~誘導材~~	~~=~~	~~m3~~	~~3.90~~	~~6.5~~	~~10.4~~	~~別途計上~~
~~ラス張工~~	~~菱形金網（φ2mm網目50×50）~~	~~m2~~	~~100.0~~	~~100.0~~	~~100.0~~	~~市場単価~~
~~種子~~		~~m3~~	~~別途~~	~~別途~~	~~別途~~	~~割増率30%~~
~~世話役~~	~~=~~	~~人~~	~~0.45~~	~~0.56~~	~~0.71~~	
~~法面工~~	~~=~~	~~〃~~	~~1.36~~	~~1.67~~	~~2.14~~	
~~特殊作業員~~		~~〃~~	~~0.90~~	~~1.11~~	~~1.43~~	
~~普通作業員~~		~~〃~~	~~1.36~~	~~1.67~~	~~2.14~~	
~~スネークホッパー運転~~	~~日径200mm~~	~~日~~	~~0.45~~	~~0.56~~	~~0.71~~	
~~グラウトミキサ運転~~	~~200L×2槽　2.0KW~~	~~〃~~	~~0.45~~	~~0.56~~	~~0.71~~	
~~グラウトポンプ運転~~	~~30～70L/min　4.0KW~~	~~〃~~	~~0.45~~	~~0.56~~	~~0.71~~	
~~誘導材吹付機運転~~	~~リデューサー付~~ ~~0.8～1.2m3/h　18KW~~	~~〃~~	~~0.45~~	~~0.56~~	~~0.71~~	
~~空気圧縮機運転~~	~~（超低騒音型）~~ ~~18～19m3/min　140KW~~	~~〃~~	~~0.45~~	~~0.56~~	~~0.71~~	
~~発動発電機運転~~	~~（超低騒音型）排対型~~ ~~45KVA（57PS）~~	~~〃~~	~~0.45~~	~~0.56~~	~~0.71~~	
~~ホイールローダ運転~~	~~（超低騒音型）排対型~~ ~~0.34m3級　21KW~~	~~〃~~	~~0.45~~	~~0.56~~	~~0.71~~	
~~諸雑費~~		~~%~~	~~4~~	~~4~~	~~4~~	
~~計~~						

~~備考1　誘導材には、破砕材、添加剤、肥料、浸食防止剤を含む。~~

~~2　種子は、現場条件等により配合量を決定する。~~

~~3　破砕材は、別途処理費用として加算する。~~

~~4　諸雑費は、揚水ポンプ、ベルトコンベア、グラウトポンプ、吹付機のホース及び仮設ロープ損料であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を計上する。~~

~~10－10－570 木質系破砕材吹付工~~

~~(1) 木質系破砕材吹付工（盛土タイプ、t＝3cm）~~

~~表4.8 木質系破砕材吹付（盛土タイプ、t＝3cm）歩掛~~

~~（100m2当たり）~~

~~名称~~	~~規格~~	~~単位~~	~~数量~~	~~摘要~~
~~吹付材~~	~~木質系破砕物（4インチ）~~	~~m3~~	~~6.30~~	
~~バックホウ運転~~	~~掴み装置付き 山積0.8m3~~	~~〃~~	~~6.30~~	~~＝~~
~~種子散布工~~	~~＝~~	~~m2~~	~~100.00~~	~~市場単価~~
~~世話役~~	~~＝~~	~~人~~	~~0.29~~	
~~法面工~~		~~〃~~	~~0.57~~	
~~普通作業員~~		~~〃~~	~~0.34~~	
~~諸雑費~~	~~上記労務費計×率~~	~~%~~	~~17~~	
~~吹付機運転~~	~~BB12m3 車載式~~	~~h~~	~~2.00~~	
~~トラック運転~~	~~11t車 吹付機搭載~~	~~〃~~	~~2.00~~	
~~計~~				

~~備考1 上記歩掛は、施工面積1,000m2以上を標準とする。~~

~~2 諸雑費は、吹付機のホース及び仮設ロープ損料であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を計上する。~~

~~(2) 木質系破砕材吹付工（盛土タイプ、t＝5cm）~~

~~表4.9 木質系破砕材吹付（盛土タイプ、t＝5cm）歩掛~~

~~（100m2当たり）~~

~~名称~~	~~規格~~	~~単位~~	~~数量~~	~~摘要~~
~~吹付材~~	~~木質系破砕物（4インチ）~~	~~m3~~	~~10.50~~	
~~バックホウ運転~~	~~掴み装置付き 山積0.8m3~~	~~〃~~	~~10.50~~	~~＝~~
~~種子散布工~~	~~＝~~	~~m2~~	~~100.00~~	~~市場単価~~
~~世話役~~	~~＝~~	~~人~~	~~0.43~~	
~~法面工~~		~~〃~~	~~0.86~~	
~~普通作業員~~		~~〃~~	~~0.51~~	
~~諸雑費~~	~~上記労務費計×率~~	~~%~~	~~17~~	
~~吹付機運転~~	~~BB12m3 車載式~~	~~h~~	~~3.00~~	
~~トラック運転~~	~~11t車 吹付機搭載~~	~~〃~~	~~3.00~~	
~~計~~				

~~備考1 上記歩掛は、施工面積1,000m2以上を標準とする。~~

~~2 諸雑費は、吹付機のホース及び仮設ロープ損料であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を計上する。~~

(3) 木質系破砕材吹付工（切土タイプ、ｔ＝3㎝）

表4.10 木質系破砕材吹付（切土タイプ、ｔ＝3㎝）歩掛

（100m2当たり）

名称	規格	単位	数量	摘要
吹付材	木質系破砕物（2インチ）	m3	6.30	
吹付材	種子、肥料等	#	3.00	
ラス張工	#14×50mm	m2	100.00	市場単価
バックホウ運転	掴み装置付き 山積0.8m3	m3	6.30	=
世話役	=	人	0.29	
法面工		#	0.57	
普通作業員		#	0.34	
諸雑費	上記労務費計×率	%	17	
吹付機運転	B B12m3 車載式	日	2.00	
トラック運転	11ｔ車 吹付機搭載	#	2.00	
計				

備考1 吹付材（木質系破砕物）には、別途処理費用を加算する。

2 吹付材（種子、肥料等）は、現場条件等により配合量を決定する。

3 上記歩掛は、施工面積1,000m2以上を標準とする。

4 諸雑費は、吹付機のホース及び仮設ロープ損料であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を計上する。

(4) 木質系破砕材吹付工（切土タイプ、ｔ＝5㎝）

表4.11 木質系破砕材吹付（切土タイプ、ｔ＝5㎝）歩掛

（100m2当たり）

名称	規格	単位	数量	摘要
吹付材	木質系破砕物（2インチ）	m3	10.50	
吹付材	種子、肥料等	#	5.00	
ラス張工	#14×50mm	m2	100.00	市場単価
バックホウ運転	掴み装置付き 山積0.8m3	m3	10.50	=
世話役	=	人	0.43	
法面工		#	0.86	
普通作業員		#	0.51	
諸雑費	上記労務費計×率	%	17	
吹付機運転	B B12m3 車載式	日	3.00	
トラック運転	11ｔ車 吹付機搭載	#	3.00	
計				

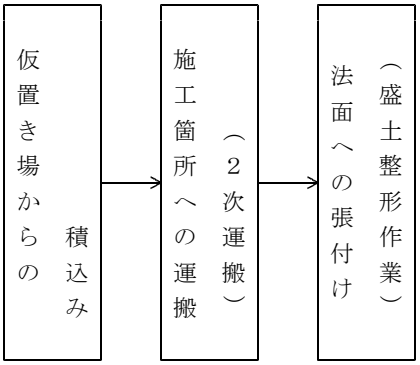
備考1 吹付材（木質系破砕物）には、別途処理費用を加算する。

2 吹付材（種子、肥料等）は、現場条件等により配合量を決定する。

3 上記歩掛は、施工面積1,000m2以上を標準とする。

4 諸雑費は、吹付機のホース及び仮設ロープ損料であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を計上する。

３－４　別工事で、すき取り土のすき取りが終わっており、仮置き場からの積込みから張付けまで一連で施工する工事の場合



（注）１．本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。
　　２．点線部分は、共通仮設費率に含まれる内容である。

４　施工歩掛

４－１　すき取り土仮置・整形

10－10－810　すき取り土仮置・整形（SQ1011）　（100m3当たり）

名　称	規　格	単位	数　量
世　話　役		人	0.05
バックホウ運転	排出ガス対策型（第~~１~~2次基準値） クローラー型（法面バケット付） 山積０．８m3（平積０，６m3）	h	2.2

４－２　すき取り土積込

10－10－820　すき取り土積込　（SQ1011）　（100m3当たり）

名　称	規　格	単位	数　量
世　話　役		人	0.15
バックホウ運転	排出ガス対策型（第~~１~~2次基準値） クローラー型（法面バケット付） 山積０．８m3（平積０，６m3）	h	3.7

４－３　すき取り土張付

10－10－830　すき取り土張付（SQ1011）　（100m2当たり）

名　称	規　格	単位	数　量
世　話　役		人	0.10
普通作業員		人	0.38
バックホウ運転	排出ガス対策型（第~~１~~2次基準値） クローラー型（法面バケット付） 山積０．８m3（平積０，６m3）	h	2.8
諸雑費率		%	0.4

（注）１．諸雑費は、スコップの費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
　　２．すき取り土の形状は土砂状とし、張付厚は10～30cmまでとする。
　　３．バックホウ（法面バケット付）損料は、バックホウ（クローラー型）損料と同額とする。
　　４．本歩掛には、すき取り土を張り付ける前の法面整形に要する費用は含まれていないため別途計上すること。

10－11　モルタル類吹付工

10－11－100　モルタル（ソイルセメント）吹付工（参考歩掛）（SQ1064）

「市場単価　00－02－110　法面工)」による。

適用範囲外について、下記歩掛を参考とする。

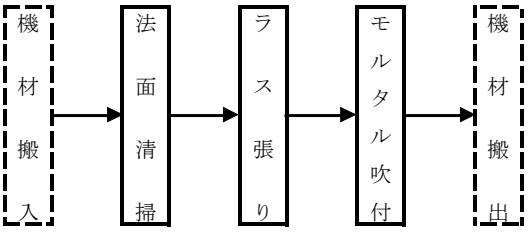
1　適用範囲

本歩掛は、山腹斜面に法面保護工としてラス張をし、モルタル又はソイルセメントをモルタルコンクリート吹付機で吹付ける工法に適用する。

機械設置基面より法面垂直高さが45m以内かつ吹付のホース延長が100m以内の場合とする。

2　施工概要

施工フロー図は、次図を標準とする。



備考　本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

3　機種の選定

機種、規格は、次表を標準とする。

表2.1　機種の選定

機械名	規格	台数	摘要
モルタルコンクリート吹付機	湿式・モータ駆動　0.8～1.2m3/ｈ、ミキサ付	1	吹付用
計量器	骨材累加計量・機械式300kg×１槽	1	
空気圧縮機	排出ガス対策型(第2次基準値)・可搬式スクリューエンジン掛(超低騒音型)10.5～11.0m3／min	1	吹付用
発動発電機	排出ガス対策型(第3次基準値)ディーゼルエンジン駆動(超低騒音型)45KVA	1	ベルコン・電気ドリル・計量器等の動力源
ベルトコンベア	モータ駆動　７ｍ	2	材料投入用
小型渦巻ポンプ	呼水式片吸込形　口径50mm×揚程10ｍ	1	揚水用、必要に応じて計上

備考　空気圧縮機及び発動発電機は、賃料とする。

4　材料の使用量

ラス金網及び吹付材料の使用量は、次式による。

使用量＝設計量×（１＋Ｋ）　　Ｋ：補正係数

表3.1　補正係数

名称	規格	補正係数（Ｋ）	摘要
金網	2.0mm－50×50mm	＋0.40	吹付面積100m2当たり140m2
吹付材料		＋0.27	はね返り損失及び混合の損失を含む

5　吹付材料配合比（参考配合比）

吹付材料配合比は、次表を標準とするが現場条件により、これにより難い場合は、別途考慮する。

表4.1　吹付材料配合比（参考配合比）　（m3当たり）

工　　種	セメント	砂	水セメント比	摘　　要
モルタル（ソイルセメント） 吹　　付　　工	420kg	1,680kg 1.24m3	45～55%	C：S＝1：4

6　単　価　表

（100m2当たり）

名　　称	規　　格	単　位	数　　量	摘　　要
金　　網	2.0mm－50×50mm	m2	140.0	表3.1
セ　メ　ン　ト		kg		表4.1
砂		m3		表4.1
混　和　剤		kg		必要に応じて計上
目　地　材		m2		〃
モルタル吹付工		〃	100.0	表6.1
表 面 処 理 工		〃		別途計上
計				

備考　金網の規格は、現場状況に応じて変更することができる。

7　施工歩掛

モルタル（ソイルセメント）吹付工（法面清掃、ラス張、モルタル吹付）の施工歩掛は、次表を標準とする。

表6.1　モルタル（ソイルセメント）吹付歩掛

（100m2当たり）

種別／名称	規　　格	単位	吹付厚 5cm～7cm	吹付厚 8cm～10cm
世　　話　　役		人	2.1	2.4
法　　面　　工		〃	6.7	7.7
特　殊　作　業　員		〃	1.6	2.1
普　通　作　業　員		〃	3.3	4.0
モルタルコンクリート 吹　付　機　運　転	湿式・モータ駆動　0.8～1.2m3/h ミキサ付	h	~~5.4~~6.4	~~6.7~~7.9
計　量　器　損　料	骨材累加計量・機械式300kg×１槽	日	~~0.8~~0.9	~~1.0~~1.2
空 気 圧 縮 機 賃 料	排出ガス対策型(第2次基準値) 可搬式スクリューエンジン掛(超低騒音型) 10.5～11.0m3／min 7.0h／日	〃	~~1.2~~1.4	~~1.4~~1.7
発 動 発 電 機 賃 料	排出ガス対策型(第3次基準値) ディーゼルエンジン駆動(超低騒音型) 45KVA　7.0h／日	〃	~~1.4~~1.7	~~1.6~~1.9
ベルトコンベア損料	モータ駆動　７m	〃	~~1.6~~1.9	~~2.0~~2.4
小型うず巻ポンプ損料	呼水式片吸込形　口径50mm×揚程10m	〃	~~0.8~~0.9	~~1.0~~1.2
諸　　雑　　費	（労務費＋機械運転経費）×率	%	12	11
計				

備考１　本表は、仮設ロープにより施工する場合の歩掛である。

２　本表には、モルタルコンクリート吹付機、空気圧縮機、ベルトコンベア等の据付・撤去及び吹付材料の現場内小運搬を含む。

３　目地が必要な場合は、材料のみ別途計上する。

４　諸雑費は、法面清掃残土処理（積込、運搬）費、ハンマドリル損料、送水ポンプ損料、吹付機のホース及び仮設ロープ損料、水槽損料、骨材ホッパ損料、水抜パイプ、スペーサ、アンカーピン等の費用であり、労務費、機械運転経費、機械損料及び賃料の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

10－12－300　現場打吹付法枠工

1　適用範囲

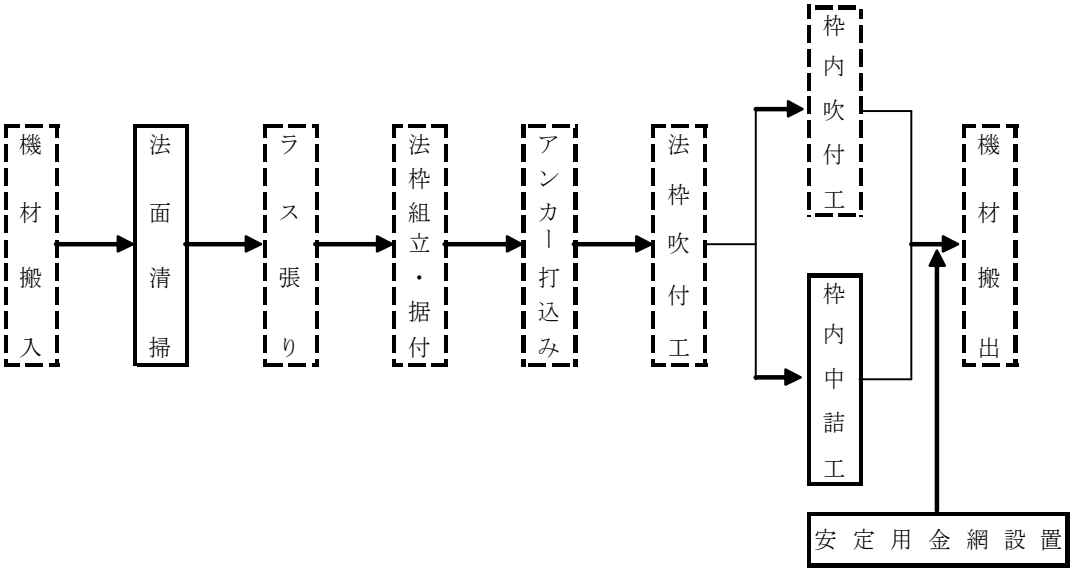
1）この歩掛は、命綱を用いて自由に変形可能な型枠鉄筋のプレハブ部材を地山に設置し、そのプレハブ部材内にモルタル又はコンクリート類を吹付けて法枠構造をつくる工法における、法面清掃、枠内中詰工のみ適用する。

機械設置基面より法面垂直高さが45m以内かつ吹付のホース延長が100m以内の場合とする。

2）法枠組立・据付工、アンカー工、法枠吹付工、ラス張工、枠内吹付工については、「市場単価　00－02－110 法面工」及び「市場単価　00－02－120 吹付枠工」による。

2　施工概要

施工フローは、下記のとおりとする。



備考　本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

図2.1　施工フロー

3　法面清掃における編成人員及び日当たり施工量

法面清掃における編成人員及び日当たり施工量は、次表を標準とする。

表3.1　編成人員及び日当たり施工量（法面清掃）

（日）

名称		単位	数量
日当たり施工量	法面清掃面積（A）	m2	219
編成人員	世話役	人	1
	法面工	〃	3
	普通作業員	〃	1
諸雑費率		%	15

4　法面清掃施工歩掛（SQ1012）

表4.1　法面清掃歩掛

（100m2当たり）

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	0.46	1×100／A
法面工		〃	1.37	3×100／A
普通作業員		〃	0.46	1×100／A
諸雑費	上記労務費計×率	%	15	
計				

備考1　諸雑費は、空気圧縮機の燃料費及び賃料、仮設ロープ損料等の費用として労務費の合計額に

(7) 機械運転単価表　　（運転日当たり）

機　械　名	規　格	指　定　事　項	適用機械工歩掛
空気圧縮機運転	排出ガス対策型 可搬式、エンジン駆動 7.5～7.8m3/min	燃料消費量→~~78~~66 機械賃料数量→1.75（供用日）	02－10－180

10－13－200　頭部連結併用工

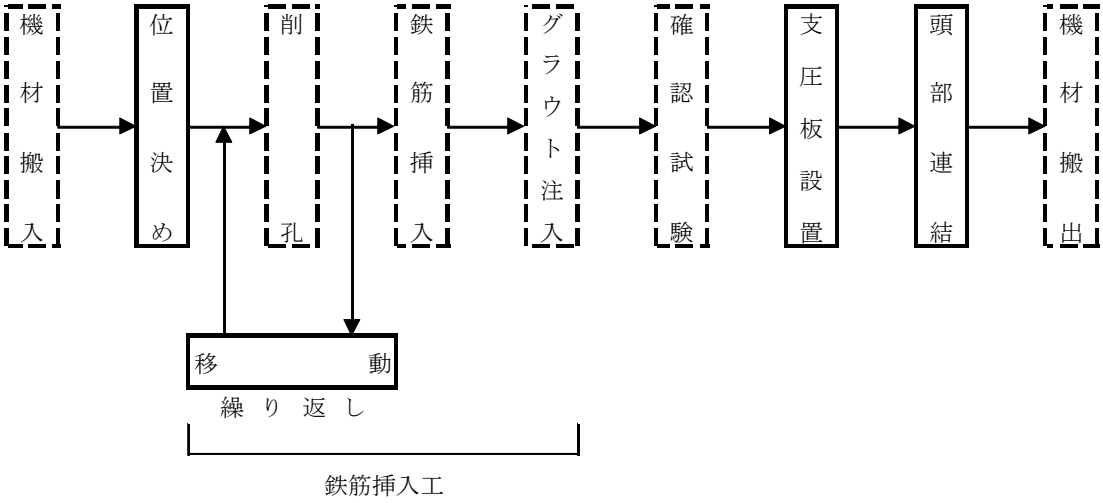
1　適用範囲

本歩掛は、斜面安定のために、鉄筋挿入工（ロックボルト工）の頭部を支圧板とワイヤーロープで連結する工法に適用する。

2　施工概要

施工フローは、次図を標準とする。

図2.1　施工フロー



備考１　本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである（ロープ足場により施工）。
　　２　鉄筋挿入工と組み合わせて用いる。
　　３　支圧板設置には、頭部処理（締付、ヘッドキャップ取付等）を含むものとする。
　　４　ロープネットで連結する工法には適用しない。

3　施工歩掛

10-13-210　位置決め（SQ1018）

位置決めの歩掛は、次表を標準とする。

表3.1　位置決め施工歩掛　　（10本当たり）

名　称	単位	数量	摘　要
世話役	人	0.20	
とび工	〃	0.40	
普通作業員	〃	0.20	
諸雑費率	%	1	

備考　諸雑費は、労務費の合計額に諸雑費率を乗じた額を上限として計上する。

(4) 頭部連結10本当たり単価表

名　　称	規　　格	単　位	数　量	摘　　要
世　話　役		人	0.24	10-13-230
特殊作業員		人	0.38	〃
法　面　工		〃	0.77	〃
資　材　費		〃	1	ワイヤーロープ等 (別途計上)
諸　雑　費		式	1	10-13-230
計				

10－14　~~のり~~法切工

10－14－100　人力~~のり~~法切工（SQ1033）

表14.1　人力~~のり~~法切施工歩掛

(10m3当たり)

名　　称	単　位	~~砂質土・粘性土、礫質土、岩塊・玉石、軟岩（Ⅰ）A~~数　量		摘　要
		法切前の斜面勾配		
		60 度未満	60 度以上	
普通作業員	人	~~3.3~~3.1	3.8	
諸雑費 率	%	~~1~~2		
~~計~~				

備考１　本表は、機械施工（バックホウ等）ができない場合及び機械施工により山腹斜面等の崩壊を助長する恐れのある場合に適用する。

２　法切前の斜面勾配は、崩壊地外周部と法切工下端部を結んだ勾配とする。

３　斜面勾配を計測する断面は、法切工の比高差が最大の断面図を用いるものとする。

~~２~~４　法面整形や土砂の移動が必要な場合は、別途計上する。

~~３~~５　諸雑費は、仮設ロープ損料等の費用であり、労務費に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

10－15　斜面整地

10－15－100　斜面整地（SQ1034）

表15.1　斜面整地施工歩掛

(10m2当たり)

名　　称	単　位	砂・砂質土・粘性土	礫　質　土	軟岩（Ⅰ）A
普通作業員	人	0.23	0.36	0.44
計				

備考１　設計面積は、斜面積（実面積）とする。

２　本表は、山腹斜面等の凹凸部分や溝等の均しに適用する。

10－15－200　溝　切　付（SQ1035）

表15.2　溝切付施工歩掛

(100m当たり)

名　　称	単　位	砂　質　土	粘　性　土	礫　質　土	軟岩（Ⅰ）A
普通作業員	人	0.26	0.26	0.26	0.40
計					

備考１　本表は、幅20cm・深さ５cm程度の溝切付に適用する。

２　本表は、植生袋筋工、筋実播工等の溝切付に適用する。

~~10－17－400　木製ポット植栽工~~

~~表17.2　木製ポット植栽工~~

~~（10本当たり）~~

~~名　　称~~	~~規　　格　　等~~	~~単　位~~	~~木　製　ポ　ッ　ト~~		
			~~A　型~~ ~~35×35×30~~	~~B　型~~ ~~45×45×35~~	~~C　型~~ ~~60×60×50~~
~~木 製 ポ ッ ト~~	~~ポット（木材）~~	~~本~~	~~10.00~~	~~10.00~~	~~10.00~~
~~土 砂 掘 削~~		~~m3~~	~~0.53~~	~~0.99~~	~~2.55~~
~~土 砂 埋 戻~~		~~〃~~	~~0.17~~	~~0.29~~	~~0.75~~
~~苗 木 運 搬~~	~~4.9t吊クレーン~~	~~t~~	~~0.40~~	~~0.70~~	~~1.80~~
~~人 力 床 均 し~~	~~必要に応じて計上~~	~~m3~~	~~1.23~~	~~2.03~~	~~3.60~~
~~計~~					

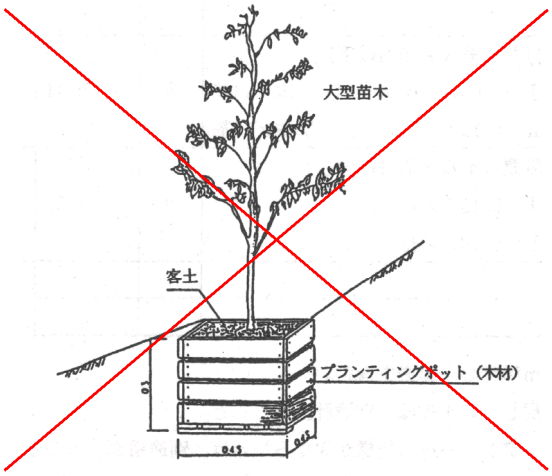
~~備考1　木製ポットは、別途計上すること。~~

~~2　本歩掛の土砂掘削・土砂埋戻は機械施工を標準としており、人力掘削の場合は別途算出すること。~~

~~3　苗木の設置は、クレーンを標準とする。これにまらない場合は、別の運搬で計上すること。~~

~~4　掘削面の床均しは、必要に応じて01－02－600人力床均し（不陸均し）を計上することができる。~~

~~標準図B型~~



~~特徴~~

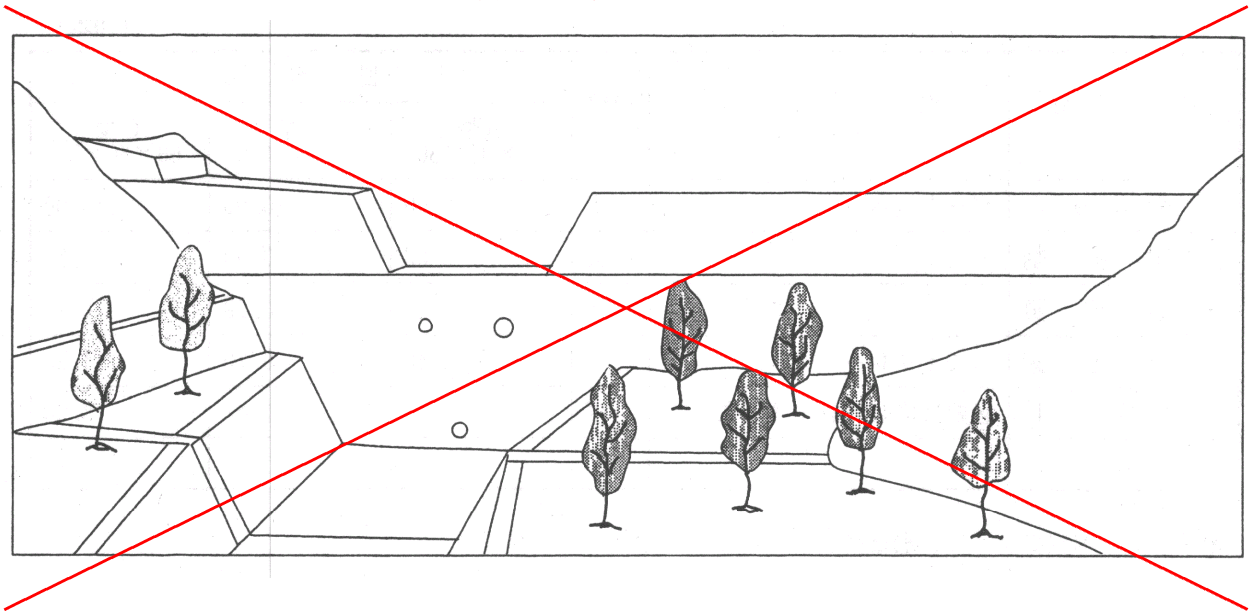
~~◎苗木を養成してから植栽するため~~

~~①植栽時期の制約を受けない~~

~~②客土の必要がない~~

~~③定植後の成長も良好~~

~~治山ダム大苗使用例~~



11　根　固　工

11－04－100　コンクリート工（SPX271）
「20　施工パッケージ　No.~~160~~164　消波根固ブロック製作」による。

11－04－200　型　枠　工（SPX271）
「20　施工パッケージ　No.~~160~~164　消波根固ブロック製作」による。

11－04－400　養　生　工（SPX271）
「20　施工パッケージ　No.~~160~~164　消波根固ブロック製作」による。

11－05－100　横取り・積込・荷卸・据付歩掛（SPX272～SPX275）
「20　施工パッケージ　No.~~161~~165　消波根固ブロック横取り、No.~~162~~166　消波根固ブロック積込み、No.~~163~~167　消波根固ブロック荷卸、No.~~164~~168　消波根固ブロック据付け、No.~~166~~170　根固ブロック撤去」による。

11－06－100　トラック等の運搬施工歩掛（SPX276）
「20　施工パッケージ　No.~~165~~169　消波根固ブロック運搬」による。

12－02　舗装前提の路盤工

12－02－100　舗装前提の路盤工

「20　施工パッケージ　No.~~231~~234　不陸整正、No.~~232~~235　下層路盤（車道・路肩部）、No.~~233~~236　下層路盤（歩道部）、No.~~234~~237　上層路盤（車道・路肩部）、No.~~235~~238　上層路盤（歩道部）」による。

なお、上層路盤（車道・路肩部）は材料が粒度調整砕石の場合とする。

12－02－200　凍上抑制層（砂・火山灰）（参考）

「20　施工パッケージ　No.~~232~~235　下層路盤（車道・路肩部）、No.~~233~~236　下層路盤（歩道部）」による。

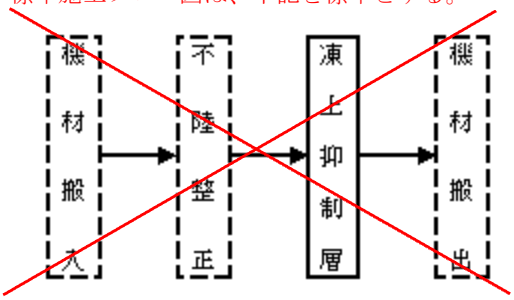
~~1　適用範囲~~

~~本歩掛は、凍上抑制層（砂・火山灰）の敷均し及び締固めに適用する。~~

~~また、　層当たりの仕上り厚は、20cmまでを標準とする。~~

~~2　施工概要~~

~~標準施工フロー図は、下記を標準とする。~~



~~備考1　本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。~~

~~2　不陸整正は、必要に応じて計上する。~~

~~図2.2　施工フロー~~

~~3　凍上抑制層（砂・火山灰）の使用数量~~

~~凍上抑制層（砂・火山灰）の使用数量は、設計数量に次表の補正係数を割増しする。~~

~~表2.6　凍上抑制層（砂・火山灰）の補正係数~~

~~凍上抑制層~~	~~砂~~	~~＋0.35~~
	~~火山灰~~	~~＋0.29~~

~~備考1　締固め整正の場合の容積補正係数である。~~

~~2　標準値より著しく差がある場合は、実際に調査し、上表と関連させ補正係数の修正を行うものとする。~~

~~3　作業幅員（車道幅員）は、上幅とする。~~

~~4　施工歩掛~~

~~(1) 敷均し（Q1）~~

~~① ブルドーザ敷均し~~

~~12－01－100　非舗装前提の路盤工と同じとする。~~

~~② バックホウ敷均し~~

~~表2.7　時間当たり敷均し作業量~~

~~区　分~~	~~材料種別~~	~~Q1~~	~~cm~~	~~q~~	~~t~~
~~0.8m3（0.6m3）~~	~~砂・火山灰~~	~~38.9~~	~~30~~	~~0.59~~	~~0.55~~

~~(2) 締固め（Q2）~~

~~12－01－100　非舗装前提の路盤工と同じとする。~~

~~(3) 敷均し補助労力~~

~~12－01－100 非舗装前提の路盤工と同じとする。~~

~~(4) 敷均し、締固め合成作業量（ＱＴ）~~

~~12－01－100 非舗装前提の路盤工と同じとする。~~

~~ただし、ブルドーザ合成作業量及びバックホウ敷均しは次のとおりとする。~~

$$QT = \frac{Q1 \times Q2}{Q1 + Q2}$$

~~ＱＴ：時間当たり敷均し締固め作業量 (m3／h)~~

~~Q1：時間当たり敷均し作業量 (〃)~~

~~Q2：時間当たり締固め作業量 (〃)~~

~~表2.8 敷均し、締固め合成作業量~~

~~作業幅員（車道幅員）~~	~~機種・規格~~	~~合成作業量（ＱＴ）~~		~~敷均し（Q1）（m3／h）~~	~~締固め（Q2）（m3／h）~~	~~摘 要~~
		~~（h／100m3）~~	~~（m3／h）~~			
~~W≧4.0m~~	~~ブルドーザ 15ｔ~~	~~3.52~~	~~28.4~~	~~69.6~~	~~－~~	~~表1.2~~
				~~－~~	~~48.0~~	~~表1.4~~
~~1.0≦W＜3.0m~~	~~バックホウ 0.8(0.6)m3~~	~~2.57~~	~~38.9~~	~~38.9~~		~~表2.7~~
~~W＜1.0m~~	~~バックホウ 0.8(0.6)m3~~	~~2.57~~	~~38.9~~	~~38.9~~		~~表2.7~~

~~5 単 価 表~~

~~12－02－210 凍土押制層（砂・火山灰）（W≧4.0m）（参考）（SPX156、SPX157）~~

~~(100m3当たり)~~

~~材料種別~~	~~名 称~~	~~規 格~~	~~単位~~	~~数 量~~	~~摘 要~~
~~砂~~	~~路 盤 材~~		~~m3~~		~~表2.6~~
	~~ブルドーザ運転~~	~~15ｔ~~	~~h~~	~~3.52~~	~~表2.8~~
	~~普 通 作 業 員~~		~~人~~	~~0.30~~	~~表1.5~~
	~~計~~				
~~火 山 灰~~	~~路 盤 材~~		~~m3~~	~~－~~	~~表2.6~~
	~~ブルドーザ運転~~	~~15ｔ~~	~~h~~	~~1.44~~	~~表1.6~~
	~~タイヤローラ運転~~	~~普通型・排出ガス対策型8～20ｔ~~	~~〃~~	~~1.39~~	~~表1.6~~
	~~普 通 作 業 員~~		~~人~~	~~0.30~~	~~表1.5~~
	~~計~~				

~~備考 Wは作業幅員（車道幅員）とする。~~

~~12－02－220 凍土押制層（砂・火山灰）（3.0≦W＜4.0m）（参考）（SPX156、SPX157）~~

~~(100m3当たり)~~

~~材料種別~~	~~名 称~~	~~規 格~~	~~単位~~	~~数 量~~	~~摘 要~~
~~砂・火山灰~~	~~路 盤 材~~		~~m3~~	~~－~~	~~表2.6~~
	~~ブルドーザ運転~~	~~3ｔ~~	~~h~~	~~4.78~~	~~表1.6~~
	~~タイヤローラ運転~~	~~普通型・排出ガス対策型8～20ｔ~~	~~〃~~	~~1.39~~	~~表1.6~~
	~~普 通 作 業 員~~		~~人~~	~~0.30~~	~~表1.5~~
	~~計~~				

~~備考 Wは作業幅員（車道幅員）とする。~~

~~12－02－230　凍土押制層（砂・火山灰）（1.0≦W＜3.0m）（参考）（SPX156、SPX157）~~

~~（100m3当たり）~~

~~材料種別~~	~~名　　称~~	~~規　格~~	~~単位~~	~~数　　量~~	~~摘　　要~~
~~砂・火山灰~~	~~路　盤　材~~		~~m3~~	~~――~~	~~表2.6~~
	~~バックホウ運転~~	~~0.8(0.6)m3~~	~~h~~	~~2.57~~	~~表2.8~~
	~~振動ローラ運転~~	~~2.5～2.8t~~	~~〃~~	~~10.75~~	~~表1.6~~
	~~普通作業員~~		~~人~~	~~0.30~~	~~表1.5~~
	~~計~~				

~~備考　Wは作業幅員（車道幅員）とする。~~

~~12－02－240　凍土押制層（砂・火山灰）（W＜1.0m）（参考）（SPX156、SPX157）~~

~~（100m3当たり）~~

~~材料種別~~	~~名　　称~~	~~規　格~~	~~単位~~	~~数　　量~~	~~摘　　要~~
~~砂・火山灰~~	~~路　盤　材~~		~~m3~~	~~――~~	~~表2.6~~
	~~バックホウ運転~~	~~0.8(0.6)m3~~	~~h~~	~~2.57~~	~~表2.8~~
	~~タンパ運転~~	~~60～100kg~~	~~日~~	~~3.00~~	~~表1.6　5h／日運転~~
	~~普通作業員~~		~~人~~	~~3.30~~	~~表1.5　タンパ運転含む~~
	~~計~~				

~~備考　Wは作業幅員（車道幅員）とする。~~

② 改良型

（100m2当たり）

区　分	名　　称	規　　格	単位	数　　量	摘　　要
材料費	プライムコート	ＰＫ３	t	0.12	
	砕　　石	Ｓ－13	m3	1.37	1.3m3／100m2×1.05（割増）
	ブラックチップ		t	0.76	0.72ｔ／100m2×1.05（割増）
	ブラックサンド		〃	0.85	0.81ｔ／100m2×1.05（割増）
	アスファルト乳剤	ＰＫ１・２	〃	0.37	（100＋160＋100）ℓ／100m2×1.02
施工費	チップスプレッダ付ダンプトラック運転	10ｔダンプ	h	0.20	
	ディストリビュータ運　　転	自走式 2,000～3,000ℓ	〃	0.26	
	マカダムローラ運転	10～12ｔ	〃	0.14	
	タイヤローラ運転	普通型・排出ガス対策型８～20ｔ	〃	0.14	
	特殊作業員		人	0.05	
	普通作業員		〃	0.19	必要に応じて計上
プライムコート養生工			m2	100	備考２
計					

備考１　ディストリビュータの日当たり運転時間は、4.3ｈ／日である。

２　プライムコートで養生砂が必要な場合は、次表を加算する。

３　材料費は別途計上する。

（100m2当たり）

名　　称	単位	数　　量
荒　目　砂	m3	0.15
普通作業員	人	0.08

12－08－300　（参考歩掛）鉄鋼スラグ路盤工

林野庁「治山林道必携（積算・施工編）」８森林整備保全事業標準歩掛の制定について第３編林道第１舗装工１－６鉄鋼スラグ路盤工による。

12－08－400　コンクリート路面工

林野庁「治山林道必携（積算・施工編）」８森林整備保全事業標準歩掛の制定について第３編林道第１舗装工１－３コンクリート路面工による。

13　舗　装　工

13－04　アスファルト舗装工（機械舗設）（SPX158～SPX165）

「20　施工パッケージ　No.~~234~~237　上層路盤（車道・路肩部）、No.~~239~~242　基層（車道・路肩部）、No.~~240~~243　中間層（車道・路肩部）、No.~~241~~244　表層（車道・路肩部）、No.~~242~~245　基層（歩道部）、No.~~243~~246　中間層（歩道部）、NO.~~244~~247　表層（歩道部）」による（平均幅員1.4m以上の場合）。

13－06　アスファルト舗装工（人力舗設）（SPX158～SPX165）

「20　施工パッケージ　No.~~234~~237　上層路盤（車道・路肩部）、No.~~239~~242　基層（車道・路肩部）、No.~~240~~243　中間層（車道・路肩部）、No.~~241~~244　表層（車道・路肩部）、No.~~242~~245　基層（歩道部）、No.~~243~~246　中間層（歩道部）、NO.~~244~~247　表層（歩道部）」による（平均幅員1.4m未満の場合）。

13－07　コンクリート舗装工

林野庁「治山林道必携（積算・施工編）」８森林整備保全事業標準歩掛の制定について第３編林道第１舗装工１－４コンクリート舗装工による。

13－14　舗装版切断工（SPX178）

「20　施工パッケージ　No.~~306~~307　舗装版切断」による。

13－16　舗装版破砕工（SPX177）

「20　施工パッケージ　No.~~305~~306　舗装版破砕」による。

13－17　アスファルト縁石工（SPX166）

「20　施工パッケージ　No.~~245~~248　アスカーブ」による。